

平成24年度  
事業報告書

平成24年4月1日から

平成25年3月31日まで

公益財団法人  
タカミヤ・マリバー環境保護財団

## 概 況

公益財団法人タカミヤ・マリバー環境保護財団は、平成23年6月10日に新公益法人としての認可を受けて以降、2回目の決算期を迎えました。

24年度は、北九州市が市政50周年を迎えたことや環境未来都市として、国内外で高く認知・評価されていることもあって、行政主導で自然環境の保全や低炭素社会の実現に向けたスマートコミュニティ構想等、様々な実証事業が推進されています。

また、それに伴って、市民・企業の意識や行動も大きく向上し、「環境」を前面に出した諸活動が各地で積極的に展開されています。

新公益法人の定款では、事業目的をよりわかりやすく、現実的な表現に改めておりますが、財団としての理念は、財団設立当時と基本的内容は大きく変わったところはなく、公益財団2年目の24年度も発足時より実施しております事業方針を変更することなく実施致しました。

### **公益目的事業**

- I. 河川・海岸の美化推進事業
- II. 水生生物の生態研究及び保護・育成事業及び海域の水産資源保護増殖事業
- III. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあい事業を行う団体に対する助成事業
- IV. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあいに関するシンポジウム・環境教育
- V. 北九州市環境ミュージアムの運営

### **I. 河川・海岸線の美化推進事業**

#### 1. 市民参加による水辺環境美化事業

24年度は、財団主催、及び共催により、地域住民や小学校児童など、一般市民も参加しての河川・海岸線美化清掃事業を13回実施しました。

内訳は、紫川、大蔵川、金山川を中心とした年間7回の河川清掃活動。

小倉日明海岸、門司海岸、若松響灘海岸を中心とした6回の海岸線の美化清掃活動を実施しました。

#### 2. マリバー1号による事業

マリバー1号は2トンパッカー式塵芥収集車で街宣設備を有し、乗務員

1名により月曜から金曜までの毎日、北九州市内の海岸線での、市民への環境美化の呼び掛け運動、及び乗務員による清掃、ゴミ収集及び処理並びに広大な北九州市内海岸部に投棄される不法廃棄物の監視、担当部署への通報活動を続け、土・日祭日等にはマリバー2号ともに、河川愛護団体等の行う美化推進活動の支援、水辺環境美化への啓発を行いました。平成24年4月1日から平成25年3月31日にかけて実施致しました内容は次のとおりです。

① 事業実施期間

平成24年4月1日（日）～平成25年3月31日（日）

② 実施地域（マリバー1号巡回地域）

- ア. 脇田海岸エリア
- イ. 響灘エリア
- ウ. 戸畑・若松エリア
- エ. 日明エリア
- オ. 砂津・末広エリア
- カ. 太刀浦エリア
- キ. 門司港・和布刈エリア
- ク. 新門司北エリア

③ 事業内容

- (1) 北九州市内の海岸線パトロール（河川美化清掃・ゴミ持ち帰り啓発）
- (2) 水辺環境愛護団体等支援

④ 活動状況

- (1) 北九州市内の海岸線パトロール  
マリバー1号（中型収集車）により、北九州市域内の海岸線を巡回する事を目的とし、パトロールルート、乗務員の勤務スケジュール策定や巡回頻度の検討を行いました。  
各エリアにつき月／2回から4回程度の巡回を行うことを、計画・実施いたしました。
- (2) ゴミ不法投棄監視・海岸線護岸等の破損の監視  
巡回を行う際に大型ゴミの不法投棄の監視、通報及び海岸線護岸の破損事故の監視、通報を行いました。
- (3) 水辺愛護団体等支援  
下記の通り、水辺愛護団体及び北九州市内の水辺に関する活動を行っている団体が主催するイベントへの出動を行い、ゴミ収集やマナー啓発・指導等の支援を行いました。

平成24年	4月21日	紫川アユ放流祭
平成24年	5月27日	門司区門司港 清掃
平成24年	7月29日	若松区響灘 大清掃
平成24年	8月19日	門司区門司港 清掃
平成24年	9月30日	小倉南北 紫川 大清掃
平成24年	10月6日	門司区門司港 清掃
平成24年	10月13日	若松区響灘 大清掃
平成24年	10月21日	門司区新門司 大清掃
平成24年	11月4日	小倉北区紫川ハゼ釣大会 大清掃
平成25年	1月27日	小倉北区赤坂海岸 清掃

#### ⑤成果

ゴミの分別行動に見られるような市民意識の高まりに加え、マリバー号の活動20年という実績、近年での1号、2号合同事業によって市民に広く認知していただけるまでになっており、多くの協力を得られるまでになっています。

### 3. マリバー2号による事業

マリバー2号は北九州市内の中小河川の巡回が主になる為、軽ダンプ式塵芥収集車により、街宣設備使用し、乗務員2名にて、毎週5日、毎月2回の頻度で北九州市建設局の管理する市内49河川の巡回により、市民への環境美化の呼びかけ、乗務員による清掃ゴミ収集及び不法投棄、護岸施設等の損壊の確認・通報を行いました。

平成24年4月1日から平成25年3月31日にかけて実施致しました内容は次の通りです。

#### ① 実施期間

平成24年4月1日（日）～平成25年3月31日（日）

#### ② 実施地域

北九州市内河川流域



### ③事業内容

- (1) 北九州市内の河川巡回パトロール（河川美化清掃・ゴミ持ち帰り啓発）
- (2) 河川愛護団体等支援

### ④活動状況

- (1) 北九州市内の河川巡回パトロール

マリバー2号（軽四輪ダンプゴミ収集車）により、北九州市内の1級河川から準用河川の49河川を全て巡回する事を目的とし、パトロールルート、乗務員の勤務スケジュール策定や巡回頻度の検討を行いました。

その結果、各河川につき月／2回程度の巡回を行うこととし、北九州市との委託契約は144日ですが、財団独自に年間約200日間の出勤を計画し、結果として、ほぼ計画通り、210日を超える巡回を実施致しました。

- (2) ゴミ不法投棄監視・河川護岸等の破損の監視

マリバー2号（軽四輪ダンプゴミ収集車）により、巡回を行う際に大型ゴミの不法投棄の監視、通報及び河川の破損事故の監視、通報を行いました。

- (3) 河川愛護団体等支援

下記の通り、河川愛護団体及び北九州市内の水辺に関する活動を行って

る団体が主催するイベントへの出動を行い、ゴミ収集やマナー啓発・指導等の支援を行いました。

平成24年	4月21日	紫川アユ放流祭
平成24年	6月10日	戸畑区天籟寺川清掃
平成24年	7月24日	小倉南区 紫川長行校区大清掃
平成24年	9月8日	八幡西区大蔵川 清掃
平成24年	9月30日	小倉南区北区 紫川 大清掃
平成24年	10月6日	八幡西区 金山川清掃
平成24年	11月4日	小倉北区ハゼ釣大会 大清掃

#### ⑤成果

ゴミの分別行動に見られるような市民意識の高まりに加え、マリバー号の活動20年という実績、近年での1号、2号合同事業によって市民に広く認知していただけるまでになっており、多くの協力を得られるまでになっています。

## II. 水生生物の生態研究及び保護・育成事業及び海域の水産資源保護・増殖事業

この事業は、紫川の生態系の研究、アユの研究・保護、北九州市内でのメダカ・ホタルの保護及び、北九州市周辺海域の水産資源保護・育成を行う事業です。北九州市の豊富な自然環境の象徴として、小倉南区・小倉北区を流れ、響灘に注ぐ紫川があります。この川は、田園部と都市中心部を縦断しており生態系を考える上でも重要な価値があります。その中で、稚アユの放流につきましては、24年度も例年通り実施しました。

地元住民や小学生など多くの市民参加によって開催され、今では地域の環境保全のシンボルとして位置付けられています。また、アユは最も象徴的な指標です。当財団は過去長きにわたり紫川において、降下・遡上の状況について調査を行って参りましたが、24年度も取水堰、取水口の影響と産卵場所について調査いたしました。

### 1. アユの生態研究・保護・育成事業

4月に恒例となっております「紫川アユ放流祭」にて、福岡県より、ご協力頂いた福岡県産の稚アユ1万尾を放流しました。

また、24年度はそのアユの産卵場所と稚魚の降下について調査しました。

過去に実施した紫川のアユ調査では、秋に

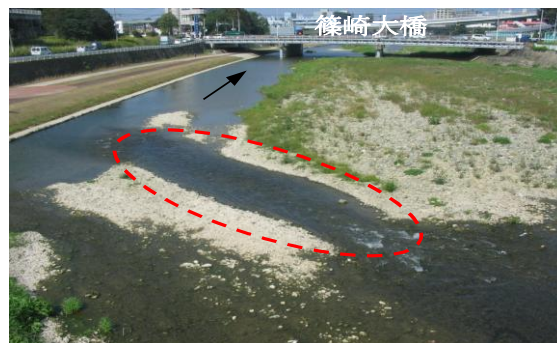


写真-1 アユの産卵場（下流方向）  
（篠崎橋より篠崎大橋方面を望む）

孵化した仔アユのほとんどが河川水と一緒に取水口より取水され、海域へほとんど降下出来ていない状況が確認されています。当財団としては、市民による環境啓発活動の促進や企業活動等の現状等を鑑み、関係者が互いに実施可能な範囲で環境保全に協力し合えるような関係を構築し、課題解決への糸口となるような活動を続けていく方針です。

そこで、今回、河川の中下層を流れて河口域へ降下するアユの仔魚を、少ない水量で効率良く河口域へ流下させることが可能であるか検討するため、パイプを使った仔アユ降下実験を実施しました。また、同時にアユの産卵状況調査も実施しました。今回、パイプによる降下実験である程度パイプの効果は確認されました。ただし、今年度の総仔アユ降下数の把握が出来ていない現状では、この結果はあくまで参考値であり、今後、継続調査が必要です。

尚、今年度は、紫川河川改修後初めての調査となり、アユの産卵場所の上流移動や多くの繁殖成魚を確認したが、産卵環境の縮小による産卵数の減少などが確認され、今年度の総仔アユ数は少なかった可能性が考えられます。

## 2. メダカ・ホタルの保護

メダカ・ホタルの保護につきましても、市内各所で助成先団体を中心として、ご協力いただいているビオトープを中心としての調査や増殖事業を行いました。放流種につきましては、同一水系による種に限定する等、生態系に充分配慮し、遺伝子レベルで地域の固有種が守られるよう、場所・方法を選定して行いました。

## 3. 水産資源保護・増殖事業

北九州周辺の海域水産資源保護・増殖につきましては、海水魚の稚魚の放流を市内各所で行い、資源の枯渇を食止め、保護・増殖に努めました。特に生態系に配慮し、クロダイ、ヒラメなどの周辺海域の固有種を放流いたしました。

## Ⅲ. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあい事業を行う団体に対する助成事業

当財団では、市民や環境保護団体の皆様と協力しあい、より美しく、自然豊かな北九州市の水辺環境づくりに取組んで行くために「クリーン・マリバー・ネットワーク」運動を提唱しています。一人一人の力だけでなく、また一団体の活動だけでなく、大きなネットワークとして盛り上げていこうという事業です。このため、当財団では環境保全や水生生物保護などに関するPRや、事業活動を積極的に推進する一方、関係団体の活動にも資金援助や協力をさせていただき助成金制度を設けています。

この制度の愛称を“マリバー・エイド”と呼び、当財団の趣旨に沿った事業の実施を目的として活動実績を有し、北九州市に所在を置く任意団体、又は有志の調査・研究グループ（自治会、子供会、学校を含みます。）を対象としております。今年度も50団体、51事業に対し助成を行いました。

#### 平成24年度分類別助成事業

##### ①河川環境美化・清掃事業及び河川愛護団体との協力、ならびに支援事業

- (1) 河川 北九州市内の河川（主として紫川）
- (2) 区間 北九州市内域の全区間
- (3) 助成団体 16団体
- (4) 合計助成金額 2,320,000円

##### ②水辺の自然と青少年とのふれあい事業

- (1) 事業概要 キャンプ教室・釣り大会・その他自然と親しむ水辺でのイベント
- (2) 助成団体 12団体
- (3) 合計助成金額 1,720,000円

##### ③水生生物の生態研究並びに保護・育成事業

- (1) 習性研究・遡上数調査
- (2) アユの保護・メダカ・ホタル飼育
- (3) 助成団体 9団体
- (4) 合計助成金額 1,070,000円

##### ④河川・海域の水産資源保護・増殖並びに沿岸域の環境美化事業

- (1) 北九州市内の稚魚放流（主として黒鯛）
- (2) 北九州市沿岸域の環境美化・清掃
- (3) 助成団体 2団体
- (4) 合計助成金額 250,000円

##### ⑤その他

- (1) 環境教育事業
- (2) 海岸線緑化他
- (3) 助成団体 11団体
- (4) 合計助成金額 1,740,000円

総合計 50団体 51事業  
7,100,000円



#### IV. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究増殖、水辺の自然と青少年とのふれあいに関するシンポジウム・環境教育

この事業は、公1、公2、公3の事業内容をより、一般市民へ広めていくために開催するシンポジウム、及び同様の主旨での子供たちへの環境教育活動を行う事業です。

シンポジウムは、毎年1回市民に対して、環境保全の必要性を訴える啓発活動の一環として、毎回、環境に関するテーマを設定し、テーマに沿った特別ゲストパネリストとともに、一般市民の方、環境問題に取り組んでいる団体、現在、地域で子供たちに対する野外体験活動を行っている団体を招いて開催いたしております。今年度は著名な脳科学者であり、環境問題に造詣の深い養老孟司氏に、特別講演講師並びにパネリストとしてご参加いただきました。

##### 1. シンポジウム

◇日時：平成25年2月24日（日）

13:00～16:30

◇場所：北九州国際会議場 メインホール

◇参加：約520名

◇主催：（公財）タカミヤ・マリバー

環境保護財団

◇共催：北九州市

##### ①第一部

「主催者・市長挨拶、マリバー大賞発表」

当日は、会場に520名を超す多くの市民が駆け付けており、北九州市民の環境に対する意識の高さが垣間見られたことが、印象に残りました。

まず、財団の高宮理事長より挨拶があり、今後とも地域の環境保全や青少年の健全育成に寄与して参りたいとの挨拶が行われた。続いて、北九州市北橋市長より、財団の活動は北九州市内でも非常に際立っており、今後とも是非、環境モデル都市の見本として、更なるご協力をお願いしたい旨の挨拶があった。引き続きマリバー大賞が発表され、本年度のマリバー大賞は、NPO法人KID's workにその地道な活動を評価し、マリバー大賞を贈呈いたしました。

##### ③ 第二部

特別講演「環境問題の真犯人は脳だった」

講師 養老 孟司 氏（東京大学名誉教授）



#### ④ 第三部

「環境未来都市としてのこれからの50年」

【コーディネーター兼パネリスト】

・伊東 啓太郎 氏（九州工業大学准教授）

【パネリスト】

・養老 孟司 氏（東京大学名誉教授）

・天野 礼子 氏（アウトドアライター）

・加茂野 秀一 氏（北九州市 環境未来都市推進室長）



## 2. 環境教育

### ① 今町小学校自然体験教室

「ふるさとの川・紫川を守ろう」

日時 7月14日(土)、15日(日)

### ② 大蔵小学校自然体験教室

「大蔵川の水生生物」

日時 9月8日(土)

大蔵小学校と協力をして「大蔵川環境教育」この事業は、授業の一環として、大蔵小学校の1～6年生の全校生徒が参加し、環境教育と地元を流れる大蔵川の清掃を行うイベントです。

川の清掃の前、大蔵小学校の生徒さん達に、環境ミュージアムのプログラムで環境について学んで頂きました。



## V. 北九州市環境ミュージアムの運営

### 1. 利用者数

総来館者数は、23年度104,973人に対して、24年度は128,463人（前年比122.3%）と昨年に対して大幅に上回ることができた。団体についても23年度568件に対し、24年度646件（前年比113.7%）と件数では昨年を大幅に上回ることができた。展示のリニューアルと、これに伴う入館料無料化、新規事業「地球の道」の立ち上げが来館者増加の要因であると考えられる。また、北九州市が行っている、「スマートコミュニティ創造事業」の最

前線である当地区の注目度の高さ、本年度より開催した地元の大型イベント「東田まつり」など、さらに東田地区に興味を持って来られる方が増えることが予想されるため、さらなる集客ができるよう努めます。

## 2. 自主事業・連携事業

### ① 未来ホテルデー（5月26日27日）

本年度は、同時期に東田地区初開催となる「東田まつり」が行われたため、これに協力する形でイベントを実施。市民団体の活動紹介をはじめ、世界を変えるデザイン展や東田水環境映像祭など目先の違うイベントを実施した。集客としても相乗効果で両日合わせて7,693名が来場し、大変なにぎわいを見せました。

### ③ ちょいエコホリデー

ひとつのテーマに沿って子供から大人まで環境について考えてもらうきっかけづくりと市民活動発表の場として開催。11月は「アート」、2月は「食」をテーマに館を挙げて行った。今後も、年数回テーマを変え実施していき、市民がより利用しやすい環境にし、市民活動のサポートをしていきます。

### ④ 四季折々のイベント

夏休みの宿題お助け企画やクリスマスリース、もちつき・年越しそばづくり、バレンタインチョコづくり体験など季節感のあるものを実施。また、石鹸づくりや染物講座、料理教室などの生活に関する人気の高いイベントは回数を増加。その他にも、北九州市の環境への取り組みを学ぶものや、生物多様性の講座、男のためのエコクッキングなど、環境に関するイベント様々な切り口で行ないました。

### ⑤ 地球の道オープン（10月5日）

北九州市環境ミュージアムは、特定非営利活動法人C.C.C富良野自然塾開発の環境教育プログラム「46億年・地球の道」を「北九州 地球の道」として導入。八幡東区東田に製作した460mの「道」を辿り地球46億年の歴史を体験する環境教育プログラムを実施しました。25年度は教育委員会と連携し、希望する市内小学校に実施予定です。

## 3. 連携事業（北九州市環境ミュージアム・北九州イノベーションギャラリー・いのちのたび博物館）

### ① 東田サマースクール

継続事業ではあるが、「東田サマースクール」を実施しました。夏休みの高学年児童を対象に4日単位で、いのちのたび博物館、北九州イノベーションギャラリーと当館の3つの施設で連携し、各館が1日ずつ担当して特色あ

るプログラムを提供しました。当館では、展示の見学をはじめ、クイズやゲーム、昔ながらの風呂敷の使い方講座など実施し、楽しく遊びながら環境について学習することに注力しました。

#### ②世界一行きたい科学広場 in 北九州

科学技術振興機構（JST）の支援事業 SAFnet 主催で3館と学術が連携したイベントを実施。九州工業大学をはじめ、小倉高校や戸畑高校などのスーパーサイエンスハイスクール（SSH）と協力し、科学にふれる機会とその楽しさを伝えた。当館は、環境科学実験を実施しました。

#### ③地域との連携

地域への協力として、八幡東区まつり起業祭の一環として行われる「八幡東田ウルトラ 25 時間駅伝」に連合チームとして参加しました。また、美化活動として東田エリアの大清掃「社長公認堂々ごみ拾い」や、3館周辺を毎月第3水曜日に自主的に清掃する5分間清掃などを行ないました。その他、地元小学校への出張授業や市内・外のイベントへの出張講座など、できる限りの範囲で協力を行ないました。

### 4. その他の利用促進、サービスの質の向上

#### ①入館料の無料化

本年度4月より入館料を完全無料化（貸室については有料）。指定管理の提案時に挙げていた案件が採用された。市民により身近に気軽に利用して頂けるようになりました。

#### ②ARの導入準備

展示の補助として、ARを導入するための準備に取り掛かっており、来年度の4月中旬には実施を開始。展示物の情報以外のものを、タブレット端末等で表示させることができ、お客様は館内をより楽しく見学でき、ガイドの説明にも厚みが増すものとなります。

#### ③企業研修の実施

新人研修として、当館を利用される企業のニーズにより、CSRや環境教育などの研修の一部を当館が実施いたしました。

#### ④エコハウスの新たな利用法

3年目を迎えたエコハウスについては、利用者自体は、昨年に対し減少しています。近年のスマートハウスの躍進など、エコをテーマにした住宅は目新しいものではなくなってきました。エコハウス内を使った自主イベントや企画展示（環境家計簿、エコ生活の提案等）を積極的に行ない、新たな利用法も試行しており、市民に対し、更に身近に感じてもらえるよう引き続き市民のニーズを模索しつつ対応していきます。また、来年度より、本田技術

研究所と北九州市が協力してエコハウスでヴィークルトゥホーム（V2H）を行います。これは日本初の実証実験で、全国から注目されており、エコハウスだけでなく、環境ミュージアムの来館者にもつながるよう、しっかりと取り込んでいきます。

## 5. 職員研修

4月上旬の展示リニューアル工事に伴う臨時休館日を利用して、3日間の日程で市内の環境関連施設を視察しました。当館とも関連のある平尾台の環境体験科コースの体験や東田コジェネやウォータープラザなど、現在行われているプロジェクトの話を通じて直接現場の方に伺い、知識の集積に繋げた。また、今夏も、山田緑地で行われた「森の楽校」に当館職員2名が参加し、インタープリテーションの本質から環境教育施設のマネジメントまでを6日間に渡り受講しました。職員については案内業務だけでなく、管理・運営についても全員で臨む体制を整えていきます。その他にも国際会議リオ+20の参加や、12月から5回に渡って行われた「ESD未来創造セミナー」を受講し、今後の環境教育の在り方について学ぶことができた。

下期より「北九州地球の道」が立ち上がり、昨年富良野で教育を受けた2名のガイドを中心に運営をスタートしました。今後は、案内のレベルアップは当然のことながら、全ガイドが担当できるよう教育を継続的に行なっていきます。

## 6. 団体対応

継続実施している、市内小学校の環境体験科では、受け入れ校数は昨年とほぼ同数を受け入れ、予約から当日のカリキュラム内容に至るまで納得頂けるレベルで対応することができました。

## 7. 維持管理、安全管理

重大な館内事故は発生しなかった。また、避難や臨時休館を要する台風や豪雨もありませんでした。

安全管理として、館内の施設管理を全職員と管理者(次長)が2重チェックする体制を継続実施中。また、日常の事故防止対策と事故発生時対応として日常的な施設点検やスタッフ間でヒヤリハット事例を共有化するほか、日報により日々の安全管理意識をチェックした。館内全体で11月に総合避難訓練実施。

## 8. 最後に

まず、24年度も大きな事故等なく無事に運営できたことをご報告致します。

展示のリニューアル、地球の道新設など、目新しいトピックスをはじめ、東田まつりやちよいエコホリデーなど、地域協力や新規事業により来場者数増加に繋がりました。より多くの方に興味をもって来場して頂けるよう創意工夫を凝らしお客様をお迎えしたいと考えております。